

大橋めぐみ作 「みんながうれしい！それがイイ！」

<登場人物>

- 和泉七海(21):(前作の音声のみ)
- 七海の母・紀子(49):野村佳代
- 七海の父・正之(54):畠山祐樹
- 七海の祖母・広江(80):野村波留子
- 早川健人(21):東 裕之
- 健人の母・美幸(51):村田泉
- 健人の祖父・隆(82):宮本正勝
- 施設長・木下:(62)小川政弘
- ソラ(3):大橋めぐみ
- お天気キャスター:大橋めぐみ
- 院内放送/エレベーター音声/事務員:岡田久美子

ソラN 吾輩はネコ様である。名前は「ソラ」というらしい。

○七海前作の音声(ソラと遊んでいる七海)

七海 ソラク〜ん。いくよー、ほら！ ん〜おりにこうだね！ 可愛いね〜♡

ソラN こいつは、和泉七海。七つの海と書いて七海だ。大学3年生で吾輩の世話係でもある。吾輩は、子猫の時にこいつに拾われ…いや、こいつの家に来てやってそろそろ3年になる、「イケメンキジトラ男子」なのである。

■和泉家リビング

七海の祖母・広江 ソラちゃん、おやつあげましょうか。食べる？

ソラN これは七海のおバアちゃんというやつだ。今日は吾輩に貢物を持ってきたのだ。なかなかよくできたしもべである。

七海の父・正之 おふくろ、七海に怒られるぞ。

広江 いいわよねえソラちゃん。今日は七海ちゃんも合宿で居ないし。ヒミツよ♪

ソラ 当然だ。

七海の母・紀子 ところでお義母さん、土曜日は大雨みたいですよ。敬老会、行かれるんですか？

広江 車でお迎えに来てもらえるから大丈夫よ。久しぶりのお友達もいるし、楽しみだわあ。

正之 気を付けていってきてくれよ。一人暮らしなんだし、何かあったら困るだろ。

広江 また！ 年寄り扱いしないでちょうだい。ソラちゃん、美味しい？

ソラ うまい！ おかわりだ！

正之 (なかば独り言)いや、十分年寄りだから…。
ソラM ふーん。人間とは変な生き物だ。大人になっても親のことを忘れないらしい。
吾輩も、生まれてすぐに母親のミルクを飲んだ記憶だけはあるが、そのあとは自分ひとりで生きてきたのだ！ 誰の世話にもならない！ それが大人の猫というものだ!!
紀子 ソラちゃ〜ん、はい、おかわりですよ。
ソラM ま、おやつを持ってくる人間なら、そばに置いてやってもいい。

■週末の和泉家リビング

○外は雨、テレビの天気予報の音声

キャスター それでは週末の天気です。今日から明日にかけて、本州付近に停滞する秋雨前線の影響で風が強まっている関東地方ですが、前線の周辺では雨雲が発達し、24時間でおよそ90ミリの、このエリアとしてはまとまった雨量となるおそれがあります。最新の気象情報を確認しつつ、早めに雨への備えを行うようにしてください」(F. O.)

紀子 (かぶって) 敬老会午前中だから、大雨になる前でもよかったわね。
正之 そうだな。

○電話の音

紀子 はい、和泉です。中央病院？ はあ…。え？ ……ちょっとお待ちください。あなた、お義母さんが敬老会の帰りに転んで怪我したって…。

■病院

- 廊下の静かなガヤ、バックに院内放送
- 院内放送 (♪) 小児科の橋本先生、外来受付にご連絡ください。(♪)
- 静まって、エレベータの動く音
- エレベータ音声(「4階です」〜ドア開閉)

紀子 エレベータ降りて右ですって。
正之 ん？ あれ、早川さんじゃないか？

■広江の病室

紀子 お義母さん、遅くなってすみません。こちら、ソラの動物病院の早川先生の奥様で、ここでばったりお会いして。ぜひお見舞いになって、来てくださったの。
健人の母・美幸 早川です。ご近所でいつもお世話になっています。急に押しかけてすみません。
正之 おふくろ、具合は？
広江 わざわざごめんなさいね。たいしたことないのよ。帰りの車に乗ろうとしたときにね、老眼鏡とか入れてある小さな袋を忘れてきたと思って…急いで取りに戻ろうとしたら玄関のところですごい風にあおられてねえ。ちょっと足が滑っただけなのよ。カッコ悪いわねえ。(笑)

■病院の廊下

○足音等

紀子 大怪我じゃなくて…、ほっとしたわ。
美幸 突然お邪魔させてもらって…ありがとうございました。
紀子 こちらこそ。あのおり明るくて人好きなので、来ていただけてよかったわ。
正之 ありがとうございました。
紀子 それにしても、やっぱり一人暮らしは心配ねえ。
正之 実際、いつまでも一人暮らしてわけにもいかないだろうが、あの性格だから誰かの世話になるのは嫌がるだろうな。
紀子 老人ホームとか？
正之 それが現実的だろうなあ。うちに来てもらってもお前が一番大変になるぞ。
紀子 そうねえ…。って、ごめんなさい、こんな内輪話。
美幸 いいえ、とんでもない。うちも主人の父が今年からケアハウスに入ったんだけど、やっぱり最初は渋ってたわ。
正之 そうなんですか。
紀子 ケアハウスに…あの、差支えなければ、お話を少し伺ってもいいでしょうか。
美幸 もちろん！ あ、でも良かったら施設の見学がてら本人に会ってみるのはどうかしら。毎年、敬老の日にはプレゼントを持っていくの。ご予約がなければだけど。
紀子 いいんですか？ お邪魔じゃないでしょうか。
美幸 全然！

■敬老の日

ソラ(あくびと伸び、鈴の音)

○玄関チャイムの音

健人 おはようございます。
ソラM お?!
ソラN こいつは、早川動物病院の息子で、七海の幼なじみの健人だ。
健人 お、ソラ おはよう。
ソラ なんだ！ 朝っぱらから何しにきた！ 今日ワクチンでも健康診断でもないぞ！
正之 健人くん、わざわざありがとう。
健人 いえいえ。うちのおじいちゃんも喜ぶます。車で母が待ってますのでどうぞ。
紀子 ソラくん、お留守番よろしくね☆
ソラ な、なんだ、でかけるのか。びっくりしたぜ。

■車の中

○美幸の運転、走行音

美幸 40分くらいで着きますから。
紀子 何から何まですみません。
美幸 とんでもない。会いにきてもらえてきつと喜ぶわ。人と話すのが好きでね。今日は主人と一緒に来られないので、特に。
正之 さっき健人くんにもそう言われました。
美幸 最初はねえ、ケアハウスに入るのを前向きに考えられなくて、しばらくは人が訪ねてくるのも喜ばなかったのよ。まあ、人の世話になりたくないっていうか、そういう自分を見せたくないっていう気持ちは、誰にでもあると思うけど。
紀子 そうなんですか。今は…どうされてるんですか？
健人 今は、なんだか楽しそうにやっていますよ。

■ケアハウス内

美幸 健人、受付に名前書いてきてちょうだい。
健人 わかった。(受付のほうに行き OFF で)おはようございます。
事務員 (OFF で)おはようございます。今日はお客様ですか。
○施設長が、少し向こうから近づいてくる

施設長・木下 おや、早川さん。おはようございます。
美幸 おはようございます。ご近所の、和泉さんです。お母さまのために見学をしたいということで、お連れしました。こちら、施設長の木下さん。
木下 そうですか。木下です。ようこそいらっしゃいました。ご面会の後でよろしければ、私から少しご説明ができますよ。
正之・紀子 よろしく願います。

■健人の祖父の部屋

健人 おじいちゃん、おはよう。
(他それぞれ挨拶)
祖父・隆 おう、健人か。おはようさん。おや？

○(F. I.) みんなの笑いのギャ

隆 まったく、お宅の猫ちゃんの動画はどれも傑作ですねえ
健人 でも普段は態度でかいのに、去年食あたりでうちにかげこんできたときは、しゅんとしちゃって…ソラには悪いけど“借りてきた猫”ってこのことかって思った。
隆 そりゃずいぶん食いしん坊さんだね
健人 あ。そうだ、おじいちゃん。(プレゼントの袋を取り出す)これ敬老の日のプレゼント！
隆 おお、ありがとう。なにかな。(包みを開ける音)
健人 カーディガンだよ。これから涼しくなるから散歩の時に着て。ちょっと派手目だけど。
隆 うん、いい色だね、ありがとう。
美幸 お散歩が楽しみですね。
隆 そうだな。

(正之たちに)ここはね、庭が広くて、四季折々の花も見られて、とてもいいんですよ。来たばかりの頃は、気持ちが後ろ向きで、そんなことを楽しむ気にもなれなかったが、今は、いいところに来させてもらったと思ってますよ。

美幸 最初は、人さまの世話になりながら生活するなんていやだけど、家族に迷惑かけるのもいやだって、ずっとご機嫌斜めでしたよね。

隆 そうだったなあ。でもここは、想像していたのと全然違ってね。

正之 どういうことですか？

隆 はじめての夕食のあと、食事を作っているっていう係の人が挨拶にきて、それだけでもびっくりしたんだが、その人が「お口に合いましたか？ たくさん食べてくださってありがとうございます」って言ったんですよ。

健人 「おじいちゃん、ちゃんと食べて！」とか言われるイメージだったから、僕もそれを聞いてびっくりしました。それに、片寄ったイメージを持っていたのを反省しました。

隆 他のスタッフの人も、我々年寄りを、人生の先輩として敬ってくれて、お手伝いさせてくださいって言うんですよ。人さまの世話になるっていうのは良くないことだと思ってたが、彼らの笑顔を見たら、自分はこれで良いんじゃないかって思えてきてね。それなら年長者として、人生の先輩として彼らとちゃんと向き合おうって気持ちになってきたんですよ。そして、できないことは若い人にがんばってもらって良いんだと。

■応接室

木下 そうですか。隆おじいちゃん、そんなことを仰っていただきましたか。

紀子 私も正直、違うイメージを持っていたので…不勉強だったかと反省しました。

木下 そんなことはありませんよ。なかなかそんな機会はありませんからね。

正之 私の母が、先週末の強風の日に転んでけがをしまして…幸い、大事には至らなかったんですが、高齢者の場合、軽く見えるけがでも、思わぬところに後遺症が出たりすることもあると聞きますし、一人暮らしなので、今後どうするかを考えておかなくてはと思ったんです。

木下 そうですか。お母さまとはそのことでお話はされていますか。

正之 いえ、まだです。人一倍自立心が強いので、誰かの世話になるという話をするときと怒るんじゃないかと。

木下 わかります。そういう方は決して少なくないですね。

○パンフレットをさしだす音

木下 ご存じかもしれませんが、うちの創立者はクリスチャンで、イエス・キリストを手本として入居者さんに仕える施設をというビジョンを持って、この施設を作りました。このパンフレットの表紙のことばですが…。

紀子 これは、聖書のことばですね？

木下 おお、そうです。ご存じでしたか。

紀子 大学生の娘が、去年から早川さんのご家族と一緒に教会に行っているんです。時々、教会でのことを話してくれるので、この“ローマ人への手紙”というのは聞いたことがあります。

木下 新約聖書のローマ人への手紙 12 章 15 節「喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい」。イエス・キリストは病気の人を癒すという奇跡を何度も行われましたが、それ以上に、病人や弱い者たちに寄り添う方でした。私たちができるお手伝いには限りがありますが、入居者さん一人一人に寄り添うことはできます。その方をよく見て、お声をよく聞いて、よく知ることで、年長者を人生の大先輩として敬い、仕えさせていただくことができるのだと思いますし、そういう場所にしていきたいと願って運営しているんですよ。ここは、毎日が敬老の日なんです。「たくさん食べてくれてありがとうございます」という言葉も、きっと、そこから出てきたんじゃないでしょうか。

■和泉家リビング

紀子 (電話で)はい、明後日ですね。お昼ごはんの後…わかりました。では 2 時頃に伺います。ありがとうございました。

紀子 お義母さん、明後日の午後に退院ですって。

正之 そうか、じゃあ午後半休を取っておくよ。

紀子 すぐにご自宅で一人は大変でしょうから、そのままうちに来てもらって何日かゆっくりしてもらったらどうかしら。

正之 それがいいな。病院でさんざんゆっくりしたのについて言われるだろうが。

紀子 (笑)ほんとね。

ソラM お、明後日はオバアチャンが来るのか！ おやつ♪おやつ♪

紀子 でも、せっかくだから、その間に、今後のことを話し合ってみたらどうかと思って…。

私たち、お義母さんのこと、今までなんとなく一方的に心配はしても、本当に、お義母さん自身に寄り添ってなかったと思わない？ 私たちがあれこれ考えてあげてるような気になっていて、お義母さんの喜ぶことをさせてもらおうとか、そんなふう考えたことなかった気がするの。

木下(回想) 「喜んでいる者たちとともに喜び、泣いている者たちとともに泣きなさい」 その方をよく見て、お声をよく聞いて、よく知ることで、年長者を人生の大先輩として敬い、仕えさせていただくことができるのだと思います。ここは、毎日が敬老の日なんです。

正之 そうかもな…。うちの「敬老の日」はこれからだな。

ソラ おい、吾輩は、毎日ケイロウノヒでもいいぞ！

紀子 あら、ソラちゃんも賛成？ オバアチャンに会いたいの？

ソラ 大歓迎だ！

ソラM オバアチャンが来たら、いつものようにたくさん遊んでやろう。たくさん撫でさせてやろう。きっと、オバアチャンが喜ぶことは、みんなやもうれしいはずだからな！ うん、それがいい！

(完)